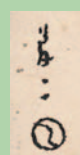


図書館展示10月●2005



七ノ才楽譜展

～竹久夢二編～



夢二のサイン

企画●佐藤 靖子(国立音楽大学附属図書館オンライン目録部)

期間●10月11日-11月14日
場所●図書館ブラウジングルーム
AV資料室

セノオ楽譜と夢二

セノオ楽譜

セノオ楽譜は、妹尾幸陽が洋の東西の名歌のかずかずを、古きも新しきも紹介するためにはじめた音楽出版社の出版物である。この楽譜の表紙は、夢二のほかに、杉浦非水、岡田九郎など多くの有名画家がそれぞれに腕をふるった。一曲ずつをひとつの印刷物にしたピース物とよばれる出版は、わかっている範囲内でのセノオリストによると 1044 点にも及ぶ。その内容は、独唱曲が最も多く、ヴァイオリン曲、ピアノ曲、合唱曲、演奏会用名曲、また軍歌や鉄道唱歌、地理唱歌などで、「セノオ楽譜」は斬新な表紙とともに厳選された、きわめて水準の高いピース物であったが、元来は誰もが購入できる 20 銭から 30 銭程度の大衆版であった。



当時の音楽年鑑の出版の項目にはセノオの活躍が生き生きと書かれてある。

『楽譜の出版は年々盛んとなりセノオ楽譜の如きは既に 400 余種を上梓し出版界のレコードを破ったと称する。近来流行しつつある楽譜叢書類を挙げれば、セノオ楽譜(セノオ音楽出版)・・・(以下略)』

「セノオ楽譜」に夢二の絵が登場するのは、楽譜番号 12 の《お江戸日本橋》が最初である(1916 年)。妹尾幸陽は、夢二の詩も愛好し、この楽譜中に夢二作詩のものが 24 篇あり、それに幸陽がみずから曲をつけたものもある。

楽譜の裏表紙にあるセノオ楽譜目録には、夢二絵と書かれていることから、当時の夢二の人気のうかがえる。

妹尾幸陽(せのお こうよう)

明治 24(1891)4 月 5 日 - 昭和 36(1961)2 月 28 日

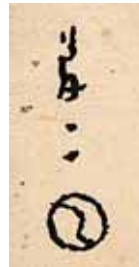
大正・昭和期の楽譜出版業者・音楽評論家・訳詞家。東京生まれ。本名は幸次郎。慶應大学中退。時事新報の記者を経て、大正 4 年(1915)セノオ音楽出版社を設立。

クラシック音楽の名曲および帝劇および浅草オペラのヒット曲などによる「セノオ楽譜」をつぎつぎに出版。評論や訳詞の分野でも活躍し、《ラ・パロマ》《私の太陽よ》などで有名である。大正 14 年東京放送局(現 NHK)本放送開始時の洋楽主任でもあった。

『日本芸能人名辞典』1995 三省堂 請求記号 X-025 (00) N

竹久夢二

夢二は、大正 5 年から昭和 2 年までの 12 年間に「セノオ楽譜」の表紙のために 280 枚ほどの装画を描き続けた。世界の名歌名曲にあわせて歌の心を描きぬいたこれらの装画には、古典的浮世絵、デフォルメした心象画、目を見張る抽象画、モダンなデザイン画など、夢二の才気溢れる意匠と多様な手法が総動員されている。また歌曲のタイトルのレタリングにもそれぞれすぐれた感覚と創意工夫がうかがわれ、今日でも少しの古さも感じさせない。残念なことに現存する原画はきわめて少なく、失われた二百数十点が惜しまれる。そのようなすは原寸大に作成された「セノオ楽譜」にしほほかない。



夢二のサイン

生誕 120 年記念 竹下夢二展 2004-5 年より 請求記号なし

竹久夢二年譜（本名 竹久茂次郎）

明治17年9月		岡山県邑久郡、父菊蔵、母也須能の次男として生まれる
明治28年4月	(12歳)	岡山県邑久町邑久高等小学校入学 この学校の服部先生が自分の絵の「最初の先生であった」
明治35年9月	(19歳)	早稲田実業学校に入学。このころ、車夫をして苦学していたのを、第一銀行重役土岐氏に見出され、書生として住み込む
明治38年6月	(22歳)	『中学世界』にコマ絵「筒井筒」が一等入選。初めて「夢二」の筆名を用いる
明治38年7月		早稲田実業学校専攻科を中退
明治42年12月	(26歳)	最初の著書『夢二画集 春の巻』（洛陽堂）刊行
明治43年8月	(27歳)	銚子町海鹿島にひと夏を過ごし、お島との恋が、後に「宵待草」の歌となる
大正5年4月	(33歳)	セノオ楽譜12番「お江戸日本橋」など描きはじめ、これ以来、昭和にわたるこの楽譜表紙における夢二装画は280種にもものぼる
大正7年9月	(35歳)	多忠亮作曲の「宵待草」、セノオ楽譜に出版され、たちまち全国に流布
昭和2年	(44歳)	都新聞に自伝絵画小説「出帆」を連載
昭和6年5月	(48歳)	アメリカに渡り個展を開くが失敗に終わる。その後ヨーロッパを巡遊
昭和8年9月	(50歳)	健康を害し帰国
昭和9年9月	(51歳)	信州富士見高原療養所にて死去

『別冊 太陽 : 竹久夢二 日本のこころ 20』 平凡社 1977 請求記号 J86-065

展示資料

夢二の作詞

《もしや逢ふか》（独唱） 竹久夢二作詩，澤田柳吉作曲

大正7年 セノオ楽譜113番 請求記号 F12-782

竹久夢二さんの歌は、みんな生々とした物悲しい気分満ちて居て、自然と、過ぎし日の思出を語るやうで、なつかしいものです。 楽譜解説より

《なみだ》（独唱） 竹久夢二作詩，山田耕稼作曲

大正7年 セノオ楽譜94番 請求記号 F12-776

竹久夢二氏の作になる「なみだ」の歌はいつかぜひ獨唱にしたいものだと言ふ希望をもつてた所、山田耕稼氏の渡米すると云ふ話から、急に同氏に作曲をお願いする事になり、そして私の註文を容れて日本式のメロディーのついたものが出来上がったのであります。 楽譜解説より

夢二の表紙絵

《歌劇カルメン》「ハバネラの歌」 ビゼー作曲，堀内敬三訳詩

大正5年(大正7年再版) セノオ楽譜28番 請求記号 F12-755

《花の香》 Claudius Blanc 作曲，Emile Blemont 詩，妹尾幸陽訳詩

大正6年 セノオ楽譜67番 請求記号 F12-765

欧文タイトル:Parfum de fleur

《歌のつばさ》 レイナルド・ハーン作曲，ヴィクトル・ユーゴー詩，妹尾幸陽訳詩

大正6年(大正8年再版) セノオ楽譜66番 請求記号 F23-448

欧文タイトル:Si mes vers avaient des ailes!

《わだつみ》 ウィリアム・ディーン・ハエルズ詩，マクダウエル作曲，二見孝平訳詩

大正8年 セノオ楽譜115番 請求記号 F23-446

《故小妹》(こしょうまい) スペイン歌詞
大正8年(大正14年再版) セノオ楽譜139番 請求記号 F1-469
原曲はスペインの古曲。「鳥のごとくに自由に」という意。

《小夜砧》(さよきぬた) シー・スレード作曲
大正8年 セノオ楽譜140番 請求記号 F16-132
原曲は「汝は他の人を愛せと教えられたり」という宗教樂。

《夕暮》(独唱) 相馬御風作歌, 澤田柳吉作曲
大正8年 セノオ楽譜126番 請求記号 F15-877

《さすらひ人》 フランツ・シューベルト作曲, 二見孝平訳詩
大正8年 セノオ楽譜130番 請求記号 F12-787

《ヴォルガの舟人, 雁の叫》 露国民謡 旗野十一郎作歌
大正8年 セノオ楽譜141番 請求記号 F1-472

《樂に寄す》 シューベルト作曲, ショーベル詩, 二見孝平訳詩
大正8年 セノオ楽譜121番 請求記号 F12-785
欧文タイトル: An die Musik

《荒城の月》(独唱) 滝廉太郎作曲, 山田耕筰改編
大正9年 セノオ楽譜92番 請求記号 F15-875

《影ふめば》 永田龍雄作詩, 藤井清水作曲
大正9年 セノオ楽譜169番 請求記号 F15-883

《夢に見る君》(独唱) シュ・マン作曲, 堀内敬三訳詩
大正13年 セノオ楽譜386番 請求記号 F23-458
この歌は「詩人の恋」と名づけられた歌謡曲16曲(作品48)のうちの第14で, ハイネ(1797-1856)の詩に節付けたもの。欧文タイトル: Allnachts im Traume 楽譜解説より

《故郷の廃家》(女声三部合唱曲) 山田耕筰編曲, 犬童球溪訳詩
大正13年 セノオ楽譜354番 請求記号 F19-947

《印度の歌》 バンベール作曲, 堀内敬三訳詩
大正13年 セノオ楽譜356番 請求記号 F1-935

《ジョセランの子守歌》(独唱) ベンジャミン・ゴダール作曲, 妹尾幸陽訳詩
大正13年(昭和4年:15版) セノオ楽譜369番 請求記号 F15-889

《はまうた》 関屋敏子作曲
大正15年 セノオ楽譜418番 請求記号 F16-589
欧文タイトル: La canzone di spiaggia

*展示資料の楽譜は、竹久夢二装丁の所蔵楽譜の一部です。

参考文献

- 『夢に見る君』音楽之友社 1982 請求記号 F10-758
- 『ロマン版画』中右瑛著 里文出版 1984 請求記号 J73-894
- 『竹下夢二展』生誕120年記念 渋谷東急東横店 請求記号なし
- 『別冊 太陽 : 竹久夢二 日本のこころ 20』平凡社 1977 請求記号 J86-065
- 『宵待草: 竹下夢二歌の絵本』矢沢寛編 大月書店 1992年 請求記号 C65-529
- 『近代日本音楽年鑑』大空社 1997年 請求記号 P1766 19(1)
- 『新版音楽五十年史』堀内敬三著 1950年 請求記号 C19-107

図書館展示

2005.10.11～11.14



国立音楽大学附属図書館 企画 佐藤靖子
広報委員 染谷周子・高田涼子
200510.11